

編集後記——最近の新聞報道によれば、日米中韓の中高生対象のアンケート調査で、海外留学希望者の割合は四か国中日本が最低だったという。日本の某有力大学の院生が、せつかくの米国留学のチャンスと断つたという話も聞いた。若者の「内向き化」現象として説明するのはたやすいが、どのような要因、環境が作用しているのかを考えると、理由は単純ではないような気がする。◇わが愛知大学現代中国学部では二年生の春学期に、中国人留学生を除く全員が四か月間、天津の南開大学で中国語研修を行っている。これは日本の大学初の試みとして始まり、現在でもわが学部最大の「ウリ」のはずなのだが、ここ数年、必ずしもセールスポイントにならないのではないかと思わせる反応も出てきて、分析の必要を感じている。◇これとは対照的に、中国人の留学熱はとどまるところを知らないようだ。私が大学院に進学した七〇年代末には中国からの留学生はまだ見かけなかったが、八〇年代に入ってから少しずつ増え始め、九〇年代以降の状況は周知のとおりである。しかし、歴史的に見れば、中国人の海外留学とは、一九世紀末以来、毛沢東時代の一時期を除いて脈々と続く太い文化的潮流であり、中国人の「生き方」の選択肢の一つであったと言える。(砂山幸雄)

世界の市場として注目を集めている中国では、「依法治国」のスローガンの下、「中国の特色のある社会主義法体系」の整備が進められている。Vol.35では、中国法の歩みを振り返り、司法の現状について考える特集を組みたいと目下構想している。

(吉川剛)

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度(400字詰原稿用紙換算) ③ワープロ等で作成したハードコピー原稿2部およびデジタルデータを提出。(原稿送付先) 愛知大学現代中国学会

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21 編集委員会

[編集長] 松岡正子 安部 悟 今井理之 梅田康子 黄英哲 砂山幸雄 薛鳴 三好 章 吉川 剛

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.33

特集 留学という文化

2010年7月30日発行

ISBN 978-4-497-21012-8 C1033

編集 愛知大学現代中国学会
愛知県西加茂郡三好町黒笹1-70 〒470-0296
Tel. 0561-36-1314 Fax. 0561-36-5526

発行人 砂山幸雄

発売元 株式会社 東方書店
東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001

制作印刷 株式会社 あるむ
名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861